

■ タイトル : 第2回 OLIS—慶應義塾大学保険フォーラム

■ 開催趣旨 : 第1回保険フォーラムに続き今回は、より具体的なプログラムとして、テーマを「キャリアパスとしての保険・信託」と実践的な現象を色濃く取り上げ、保険業界への関心を喚起し、将来のキャリアパスの一つとして共に考えることを主題とした。

■ 参加者内訳

	参加登録者数	参加者数		合計参加者数
		参加率(%)	登録外	
学生	64	51(80%)	7	58
一般	9	8(89%)		8
合計	73	59(81%)	7	66

■ プログラムレポート

- 講演 1 講演者 大阪大学金融・保険教育研究センター長 長井 英生 氏
テーマ 「大阪大学金融・保険教育センターの活動について」

2006年4月、金融・保険教育研究センターは、高度化した金融・保険に関わる活動に対応しうる人材育成と文理連携による教育プログラムの開発を目的に発足された。

プログラム開始の背景として「学術上の要請」と「実業界の要請」を挙げられそれぞれの緊急度を述べられた。また教育プログラムの概要と体系を詳細に説明され、取分け「インシュランスコース」が多くの実務経験者による講義、演習であり終了後のスキルパスもアクチュアリーを基本とした職業、業務であり、就職先も拡大している現状を報告された。その他のプログラムも「金融・保険セミナーシリーズ」、「寄附研究部門セミナーシリーズ」また各種の「ワークショップ」の実例を示されセンターの活動報告を紹介された。

○ パネルディスカッション

テーマ 「キャリアパスとしての保険・年金」

司会 SBIアクサ生命保険 山内 恒人 氏

パネラー SBIアクサ生命保険 野口 俊哉 氏

日本生命保険 大久保 亮 氏

JP アクチュアリーコンサルティング

黒田 英樹 氏

2部構成にて行われ、第1部は各パネラーによる損害保険、生命保険、年金・信託の各業界説明をその役割と現状を中心に紹介され、第2部のパネルディスカッションへ入った。パネルでは事前に受け付けた問題を取り上げたが、「海外進出(グローバル化)の問題点と課題」、「生命保険業界の統合の可能性」、「年金アクチュアリーの見通し」などを中心にパネラーと参加者の意見交換が活発に行われ、参加者の業界への興味とスキルパスへの強い要望が感じられたプログラムとなった。

○ 講演 2 講演者 慶応義塾経済学部長 小室 正紀 氏
テーマ 「福沢諭吉と保険事業」

教育者であり、思想家でありまた実業家でもあった慶應義塾大学創始者の「福沢諭吉」と「生命保険」の関係を主題に講演された。講演の課題は「福沢諭吉は、どのように生命保険事業にかかわったか」、「福沢諭吉はなぜ生命保険事業を重視したか」の2点に絞り解説された。保険事業とのかかわりは、明治2年の丸屋商店に遡り「死亡請合」の制度説明から明治生命保険会社の創業に至る経緯を多くの関係者紹介を交え述べられた。またなぜ生命保険事業を重視したかの点は、福沢の原体験を「新たな非血縁的社会」、「他人の財に依らざる独立性」そして「共同体からの距離感」の3点を挙げられた。従来の福沢理論では外因としてその当時の外国列強との経済交易戦略上の面が強くアピールされることが多かったが、福沢の原体験の内因性が生命保険事業を重視した要因であるとの解釈は新鮮で興味深いものであった。